

# 令和4年度実績報告書

令和5年3月31日  
北海道大学アイヌ共生推進本部

## 1. はじめに

アイヌ共生推進本部（以下「本部」という。）は、アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するため、本学における施策を企画立案し、学内外のアイヌ民族とその他の本学構成員の共生を実現するために令和4年4月に設置された。

令和4年度は、「学生への教育」「教職員への研修」「文化振興」「歴史的経緯の語り継ぎ」の4点を施策の柱として位置付け、アイヌ民族に関する知見を有する本学の教員等から構成されるアイヌ施策検討委員会を中心に、以下に掲げる事業を行った。

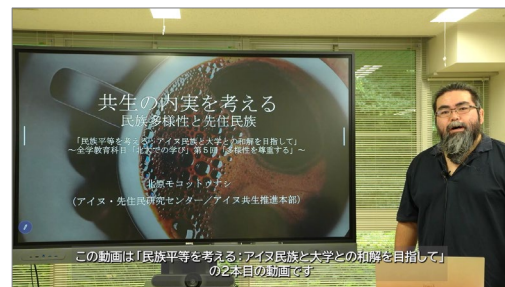
## 2. 各種施策

### (1) 学生への教育

本学にはアイヌ民族にルーツを持つ学生・教職員が所属しており、大学構成員全体がアイヌ民族に関する理解を深めることで、これらの学生・教職員が安心して勉学や教育研究に専念できる環境を整備することができる。また、道外や国外からも多数の学生を受け入れている本学において、全ての学生がアイヌ民族について学ぶ機会を設けることは、差別のない民族共生社会の実現にも貢献すると考えられる。

上記の趣旨を踏まえ、令和5年度学部入学者から1年次の必修科目となる全学教育科目「導入科目（北大での学び）」の令和4年度試行実施において、アイヌ民族に関する講義を行った。講義は多様性をテーマとした枠の中で実施し、「アイヌ民族と本学の歴史的経緯」や、「民族多様性の尊重」に関して説明を行った。同科目には、令和5年度以降も継続して参画する予定である。

また、大学院生にも同様の教育を行うため、令和6年度から大学院共通授業科目に参画するための準備を行った。



(講義の様子)

## (2) 教職員への研修

本学は、令和元年度に笠原総長職務代理（当時）が発表した声明において、研修等を通じてアイヌ民族に関する教職員の理解を深めることを表明しており、令和元年度から毎年、研修を実施している。令和3年度以降は、研修の対象者を、非常勤職員も含めた全教職員（約8,000人）に拡大している。

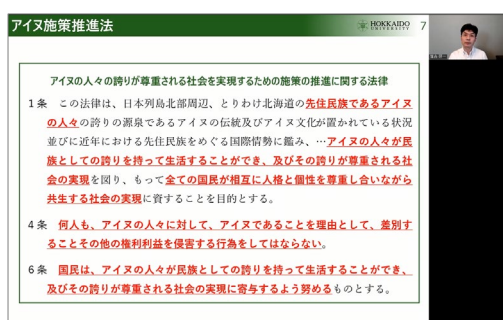
令和4年度における研修は、

- ① 共生社会に向けた変革をめざして（アイヌ共生推進本部 山本文彦本部長）
- ② サクシュコトニ川のほitoriから考える札幌キャンパスの歴史（文学研究院 谷本晃久教授）
- ③ 国のアイヌ政策の動向（アイヌ・先住民研究センター 落合研一准教授）
- ④ 安心な学内環境のために（アイヌ・先住民研究センター 北原モコットウナシ准教授）

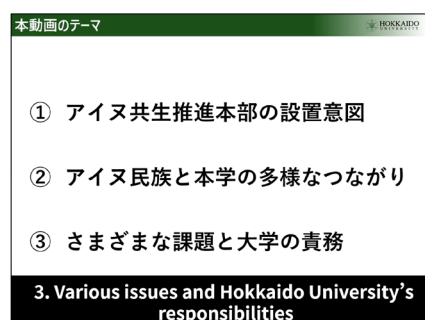
の4編をオンデマンド配信した。このうち①②は、令和4年度に新たに開講した。また、個々の研修の枠を概ね10分程度に収めることで、教職員による視聴のしやすさに配慮した。

研修期間は11月16日から12月14日までであり、1,053名が受講した。これは、令和3年度受講者の611名に比して72%の増加であった。また、受講後のアンケートとして111件の意見が寄せられた。

研修動画及び資料は、研修期間後も視聴できるように学内限定サイトに掲載した。掲載に当たっては、視聴者や部局からの要望を受け、英語字幕を付した動画を新たに用意した。



(研修の様子)



(英語字幕版の作成)

### (3) 文化振興

キャンパス内でアイヌ文化に親しむ機会が確保されていることは、アイヌ民族にルーツを持つ学内構成員にとっては安心な環境の確保につながり、それ以外の構成員にとっても民族文化への理解がより深まることが期待される。

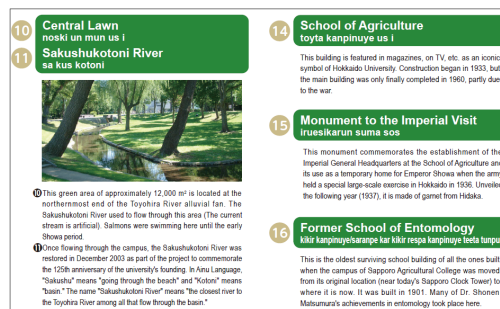
令和4年度は社会共創部広報課と連携し、キャンパスガイドマップに記載された施設名へのアイヌ語併記を充実させた。令和3年度の時点で、日本語・英語・中国語・韓国語の各マップに試行的にアイヌ語併記（アルファベット表記）を実施していたが、特に日本語利用者から読み方がわからないとの意見が寄せられたため、令和4年度は内容を見直し、日本語のマップにはカタカナで、英語・中国語・韓国語のマップにはアルファベットで記載することにより、各言語圏の利用者が理解しやすいように配慮した。キャンパスガイドマップは、紙媒体として約33,000部が印刷され、本学のインフォメーションセンター等で配付されているほか、本学ウェブサイトでもPDFでの閲覧が可能であり、本学を訪れる観光客や研究者に対し、アイヌ文化に親しむ機会を提供することができた。

また、事務局の案内図及び表示板において、本部の名称をアイヌ語でも表記した。キャンパス内におけるアイヌ語の普及は、学生や教職員、本学への訪問者等にアイヌ文化に親しむ機会を提供し、ひいてはアイヌ語の使用が当たり前の社会の実現に繋がると考えられる。

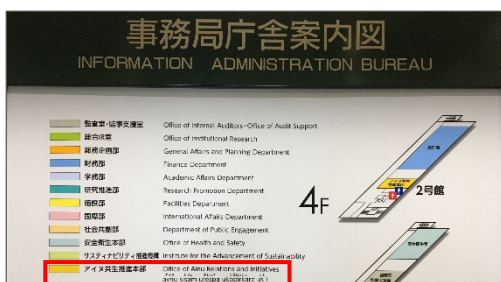
その他、来年度以降に実施する文化振興策の企画立案を行った。



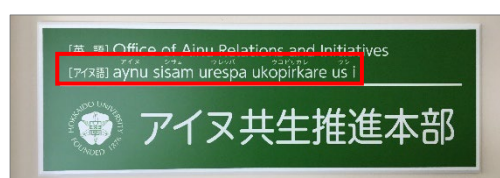
(日本語マップにおけるアイヌ語表記)



(英語マップにおけるアイヌ語表記)



(事務局案内図におけるアイヌ語表記)



(本部居室前の案内板)

#### **(4) 歴史的経緯の語り継ぎ**

上述のとおり、「学生への教育」及び「教職員への研修」として、アイヌ民族と本学の多様な歴史的つながりに言及し、本学の構成員として必ず理解すべき事項として説明を行った。

また、民族の尊厳に対する適切な配慮を欠いた歴史的経緯があったことを複眼的に理解し、継続的に語り継ぐため、アイヌ民族と北海道大学の歴史的経緯に関する資料収集を行った。

#### **(5) その他**

本部の活動を学内外に公表するため、令和5年3月、本学ウェブサイト内に本部のページを開設した。

### **3. アイヌ民族との対話**

各施策の企画立案・実施に活かすため、アイヌにルーツを持つ学生・教職員等と計2回、対話を行った。対話のテーマは、「アイヌ民族である学生・教職員が安心して教育研究に専念できる環境の整備」であった。

### **4. おわりに**

令和4年度においては、上記のとおり「学生への教育」「教職員への研修」「文化振興」「歴史的経緯の語り継ぎ」のそれぞれの施策に一定の進捗が見られた。特に、授業の必修化に向けた準備、研修受講者の大幅な増加、動画の英語字幕化を行えたことは、施策の対象者の拡大に繋がる成果だったといえる。

令和5年度においては、これらの実績を引き継ぎ、アイヌ民族や先住民族に関する既存科目の整理、研修受講者の更なる拡充、文化振興に関する具体的施策の推進等について、引き続き事業を進めていく。